

教育新報

新大教育学部同窓会
第175号

発行人 白杵 勇 人
事務局 新潟大学

教育学部内

TEL(025)263-6760

印刷所 (株) 文久堂

母校の教員養成改革を見据えて

会長 白杵 勇人



日ごろより同窓会活動にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。皆様のお蔭で、平成二十九年度に計画した諸活動を無事終えることができました。本当にありがとうございます。

平成三十年六月九日、平成三十年度の評議会を開催しました。教育学部副学部長の八坂剛史様のご臨席を賜り、本年度の活動の重点や各部の活動、予算案等を承認していただきました。

さて、皆様もご存じの通り、平成二十八年度に設置された教職大学院(正式名称は教育学研究科)が三年目を迎えています。初めて修了生が現場に戻り活躍しています。同窓会は、これまで設置や運営についてバックアップしてきましたが、今後も維持・継続・発展のための支援を推進したいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

そこで、教育学部同窓会の会則を見

直し、教職大学院(以下、教育学研究科)生も同窓会会員とすること、また予算の面でも支援できる体制を構築できるようにすることを評議会で提案し、承認していただきました。

特に、予算面では教育学研究科の研究助成として八十万円の拠出を新たに設けました。新潟県、新潟市の教育界をリードする優秀な教員養成に尽力願いたいと考えています。

八坂副学部長様から、平成三十一年度から、これまでの定員十五名から二十名に増やすこと、増える五名は、教育学部卒業生から募集することを教えていただきましたので、ますます教育学研究科の充実・発展が期待されるところです。

また、教育学部の状況では、教員養成改革が推し進められ、卒業生の五十パーセントが教員採用検査合格という

使命を果たすことを目指すそうです。そのため小学校教員養成を充実させ、四十人の推薦枠を小学校教員希望に特化した募集に変えていくなどのお話を伺いました。

道徳の教科化、小学校の外国語活動・英語導入、特別支援教育の充実など、卒業生や修了生が教育学部や教育学研究科で学んだことが即、現場で実践できる、即戦力になれる教員の養成が実現できるよう同窓会としても支援していきたいと考えています。

最後になりますが、是非とも皆様にご協力していただきたいことを三つお願いいたします。一つ目は、「同窓生の集い」への参加です。元新潟市立小学校長の橋本定男様から御講演いただきました。お土産にクリアファイルのプレゼントも検討しています。二つ目は、「組織の充実と強化」です。支部活動や学科の集い、同期の集いへの助成を充実させたいと考えています。三つ目は、「広報活動の充実」です。教育新報をはじめとしてホームページの活用を充実させたいと考えています。「会員相互の親睦と資質向上を図り、母校の発展に寄与すること」を目的とした同窓会も六十三年目を迎えました。母校がより充実発展していけるよう、本年度も皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



花鳥風月

これまでに、どのような人との出会いがあったでしょうか。人の人生は、どのような人と出会うことが出来たのか、また、その人との出会いを自分がどう捉えたのかで、人生の築きが大きく変わってくると思います。

私には、この人と出会うことができて本当に良かったと思う人たちがたくさんいます。新潟大学教育学部在学中にも人生を大きく左右する貴重な出会いがたくさんありました。礼儀と恩義、社会人としての常識等、厳しく指導いただいた研究室の教授。その教えがあればこそ、今の自分があると深く感謝しています。また、大学の同期の大半は、志を同じくして教師となり、今でも切磋琢磨し、支え励ましてくれる唯一無二の存在となっています。

一昨年の夏、卒業してから十年ぶりの教え子との同窓会がありました。集まった人数は二十人にも満たないものでしたが、その内三人も教師を目指し頑張っている子がいたことに、大きな感銘を受けました。その子の将来の選択にどれ程の影響を与えたのかは、あえて記述いたしません。しかし、少なからず教師となったからには、「私もこんな先生になりたい。」と思ってもらえるような存在でありたいと日々精進しております。

(副広報部長 保坂章夫)

評議会の報告

六月九日(土)、新潟教育会館を会場に、新潟大学教育学部副学部長、八坂剛史様、顧問の斎藤寿一郎様、安達徹様を来賓に迎え、同窓会の評議会が開催された。

評議会では、平成二十九年度の会務報告・決算報告があり、平成三十年度の本部役員が承認された。続いて、平成三十年度の活動の重点と各専門部の活動報告・活動計画、予算案の提案があり、いずれも全会一致で承認の運びとなった。

冒頭、臼杵勇人会長から、教職大学院(以下正式名称…教育学研究科)を修了した教員が現場に戻って活躍しているという報告があった。

また、教育学部同窓会として、教育学部や教育学研究科の教員養成改革の方向性を見極め、三年目を迎えた教育学研究科に助成金を予算計上するなど、よりバックアップしていくことが示された。

続いて、八坂剛史副学部長から、祝辞をいただいた。その中で教育学部の近況報告という形で三点述べられた。

一つ目は、昨年度から作成していた教職課程認定の書類を文部科学省に提出し、再課程認定申請に向けて引き続き作業を進めていること。

二つ目は、教育学研究科が独立大学院となり、研究科長を設けたこと。また、来年度に向けて募集定員を学部から五人増やして二十人とし、教育実践コースにおいて教科教育分野と特別支援教育分野を新たに設ける拡充計画を進めていること。

三つ目は、教育学部の定員二二〇人のうちの四十人の推薦枠を小学校のみとし、小学校を重視した教員養成課程を拡充していくこと。



祝辞 八坂剛史 副学部長



評議会の様子

近況とともに教員養成改革の展望が示され、祝辞を締めくくられた。その後、会長から平成三十年度の活動の重点が示された。

三十年度 活動の重点

一 「同窓生の集い」の充実

- ・内容を講演会とする。
- ・学科を中心とした絆強化の機会とする。

- ・できるだけ大勢の参加を目標に、講師、会場、時期を検討する。

二 広報活動の充実

- ・より親しまれる「教育新報」を目指し、内容の充実を図る。学部と

- の連携の観点から、学部の状況、教官、教育学研究科等の情報も掲載する。
- ・会員の情報提供及び情報交換の場として、ホームページの活用を図る。

三 組織の充実と強化

- ・県外と同窓生同士のつながりを支援する。(同期の会への補助)
- ・各部の事業や各学科・支部の活動を基に、会員の帰属意識の向上を図る。

四 大学との連携

- ・教員養成改革の方向性に合わせて母校の発展のための助言や支援方法を検討する。

- ・教育学研究科の維持・継続・発展のための支援を推進する。

- ・学生への支援並びに学部教官の同窓会活動への参加を働きかける。

- ・学部と連携して「カミングホームデー」を開催し、教官との情報交換と絆づくりをとおして、同窓生としての帰属意識を喚起する。

五 全学同窓会との連携

- ・平成三十年度の全学同窓会交流会への参加を呼びかける。
- ・「新潟大学カード」の周知を図り、加入者・利用者を図る。
- ・全学同窓会賛助会費の周知を図る。

(文責 島垣 武)

平成三十年度

専門部活動計画

◆ 研修部 ◆

部長 渡辺 真也

一 研修部活動計画

研修部では、同窓生が親睦を深めるとともに自己の人的な資質を高めることを目的に本年度事業を以下のように計画いたしました。多数の皆様の参加をお願いいたします。

二 事業内容

「第四十五回 同窓生の集い」

・期 日 九月二十九日(土)
・会 場 アートホテル新潟
新潟駅南口直結

・講演会

(二時十五分～三時四十五分)

「ドラマをつくる」

・教育実践、特別活動の醍醐味」
講演会というより「寄席」のような楽しいお話です

・講 師 橋本 定男 様

新潟薬科大学 非常勤講師

・懇親会 (四時～六時)

申込等詳細は十ページをご覧ください。

◆ 広報部 ◆

部長 本間アユ子

一 基本方針

○同窓会の活動や会員、大学等の様子を積極的に紹介することにより同窓会の士気を高める。
○大学との連携をより一層密にした広報活動の推進を図る。

二 活動内容の概要

「教育新報」年間二回発行

○第一七五号(七月二十日発行予定)

巻頭言、花鳥風月

評議会の報告

三十年度専門部動計画

支部・学科代表者会の報告 本部

役員、支部長、学科代表一覧

二十九年度決算報告

三十年度予算

教職大学院の三年目

大学教官の異動及び大学のコーナー

「同窓生の集い」の広報

○第一七六号(二月二十日発行予定)

巻頭言、花鳥風月

「同窓生の集い」の報告

学校紹介(小・中・特別支援学校)

「カミングホームデー」報告

三十年度会務報告

全学同窓会交流会の報告

学科や支部の活動紹介

大学教官との懇談会の報告

大学のコーナー

会員の広場

三

お願い

○情報提供や原稿執筆にご協力をお願いします。

◆ 組織部 ◆

部長 内木 正宏

一 活動の重点

(一) 学部及び学科部との連携を図り、会員の連帯意識の高揚に努める。
(二) 準会員(永年会員となる学生)とその保護者に対して、同窓会活動への理解を得るよう努める。
(三) 支部等の組織の改編に向けた諸活動の検討を継続して行う。

二 活動内容

(一) 支部長会の開催

① 平成30年6月9日(土)

② 新潟教育会館会議室

③ 支部の状況、情報交換、会費の納入

(二) 支部の集いの開催

① 平成30年6月9日(土)

② 新潟教育会館相談室

③ 学科の状況、情報交換、会費納入

※ 評議会終了後、学科代表者会と支部長会を同時開催して別室にて開催する。

三 その他

(一) 教職退職者への対応

事務局と連携して、継続の意思を確認する活動を進める。

(二) 学部入学生、学部卒業生への対応

事務局と連携して、入学生には同窓会の理解を得る活動、卒業生には、永年会員の確認(連絡先等)の活動を進める。

(三) 検討事項

支部組織の再編(生活根拠地を基盤とした支部組織への移行)及び見直しを進める。

県外支部の支援を見据え対応できるようにしておく。

同窓会組織の再編について(学部生の減少と教職大学院の関係)を検討する。

教職以外の職に就いた卒業生への対応について検討する。

◆ 交流部 ◆

部長 永井 高志

一 カミングホームデーの開催

平成三十年八月二十五日(土)

懇親会を通して、卒業生・修了生の現在の状況や学部・教育学研究科への要望、同窓会活動への提言等について情報交流を行う。

二 新潟大学教育学部教職員と同窓会役員との「懇談会・懇親会」の開催

学部と現場の双方の現状を報告し、要望を述べ合いながら交流を深め、意思の疎通を図る。

○大学学部・教育学研究科の現状と主な取組

○卒業生・修了生の就職状況と現場との連携

○同窓会活動への提言 等

三 各種教育関係機関、他団体等との連携の促進

全学同窓会主催の「新潟大学全学同窓会交流会・懇談会」への参加を促す。

交流部は、本年度、カミングホームデーの持ち方に工夫を加え、充実したものとなるよう企画しました。

支部・学科代表者会の報告

平成三十年六月九日（土）、評議員会に引き続き、十五時から新潟教育会館において、支部長会、学科代表者会を開催しました。

なお、両会は、別室にて同時に行いました。以下、会の概要をお知らせします。

支部長会

三十四支部
中十五支部の
支部長が出席
され、瀬藤雄
二副会長の挨拶の後、一言
ずつ支部の現
況や問題点を
話していただ
きました。



その中で、会員名簿作成や年会費納入など、支部内の各校・機関の幹事の動きを支部長が把握できずに、大変困っているという話が出ました。そこで、情報交換の場では、今後の解決策として、事務局に対し次の要望が出されました。

・これまで、三月に各校・機関の幹事宛てに出されていた「同窓会会員名簿の提出」の依頼文書は、四月になってから、新支部長の名簿一覧とともに配付する。また、支部長には、前年度の支部内の名簿を送付する。このことにより、年度末の異動時の混乱が避けられ、幹事から事務局や支部長への報告が確実になる。また、期日までに報告がない幹事に対して支部長から催促しやすくなる。

・これまで、各校・機関の会員名簿は、幹事から直接事務局に送付されるだけだったので、支部長にも送付する。このことにより、評議員会までに、支部内の各校・機関の状況を事務局と支部長が情報共有できる。

・これまで、各校・機関の年会費納入状況は、事務局しか把握していなかったもので、幹事から支部長に「振込払込請求書兼受領証」の写しや振込者の名簿の写しを送付する。このことにより、九月末までに、支部内の各校・機関の納入状況を事務局と支部長が情報共有できる。また、期日までに納入がない幹事に対して支部長から催促しやすくなる。

なる。

今後改善を図り、同窓会名簿作成や年会費の納入に向け、支部長と事務局が協力していくことが確認されました。

また、事務局からは、支部研修会や講演会等への各種支部助成金を大いに活用してほしい、該当するかどうかわからない時には連絡してほしいとのお願いがありました。

その他、同窓会はい取組を行っているので、会員に積極的に周知してほしいという要望も出されました。

学科代表者会

学科代表者会は、十三名の参加で行われました。各科から今年度の学科のつどいの持ち方や日程について説明がありました。

卒業論文への指導、研究会の開催を積極的に、学科学科としての絆を深めている例が紹介されました。

どの科にも言えることは、学科のつどいには必ず大学の



先生をお呼びすることから、大学の先生を核に結びついていることがはつきりしました。その反面、大学の先生が不在になり、学科そのものが成り立たないといった例や、学部改編のために卒業した学科が既になくという実態から、科としてまとめにくいという声も聞かれ、課題が浮き彫りになりました。

名簿に関しては、現在の方式（永年会員）で会員の獲得をしていくと、卒業時には会報を個別に郵送している関係で、名簿がでにくいのではという意見がありました。これに対して、事務局より、卒業時には各学科に代表者を一人任命しているの、そこを手掛かりに学科の名簿を作成できるのではないかとという方策も出されました。

学部の改編や小学校教員養成を重視するというお話から、自分たちの学科もやがて絶滅危惧種になるのではないかとという悲痛な叫びも出ました。来年は大学の先生からも学科代表者会に臨席いただき、生の声を聴いていただこうという考えも出されました。

最後は、同窓会として、力強く今の教育学部を応援しようということに一致団結し、閉会しました。

（文責 内木正宏）

平成30年度 同窓会本部役員

〔任期は30～31年度〕

役 職	氏 名	支部	校名など
会 長	臼杵 勇人	新潟東	東区教育支援センター
副 会 長	本間 正人	新潟東	中野山小学校
	石栗 美子	新発田	菅谷小学校
	水澤 玲子	新潟北	岡方第一小学校
	瀬藤 雄二	長岡西	大島小学校
事 務 局	杉山 和敏	新潟西	教育同窓会事務局
	滝澤恵美子		
専 門 部	研 修 部	◎渡辺 真也	新潟東 牡丹山小学校
		○小泉 慎子	新潟中央 鏡淵小学校
		塚本 弓子	新潟中央 日和山小学校
		渡邊 祐哉	三 条 三条第一中学校
	広 報 部	◎本間アユ子	新潟南 味方小学校
		○保坂 章夫	新潟南 大鷲小学校
		島垣 武	新潟西 中野小屋中学校
		若月 利春	新潟西蒲 漆山小学校
		國井恒太郎	新潟南 大鷲小学校
	組 織 部	◎内木 正宏	新潟西 東青山小学校
		○小野 裕子	阿賀野 堀越小学校
		長沢 剛	新潟北 木崎小学校
		樋口 大輔	新潟西蒲 曾根小学校
		加藤 雅晃	新潟東 桃山小学校

役 職	氏 名	支部	校名など
専 門 部	交 流 部	◎永井 高志	新潟西蒲 越前小学校
		○小泉 浩彰	燕 燕市教育委員会
		古川 智子	新潟中央 鳥屋野小学校
		高橋 征也	新潟東 下山小学校
		八坂 剛史	大 学 新潟大学教育学部
監 事	事	松野 孝雄	新潟西蒲 曾根小学校
		松井 裕美	新潟西蒲 和納小学校
		佐藤 文俊	新潟東 木戸中学校
顧 問	問	中川 幸次	長岡東 自宅
		江口 直禎	新潟中央 自宅
		大関 雄策	新潟中央 自宅
		磯辺 浩昭	新発田 自宅
		藤井 保男	新潟東 自宅
		斎藤寿一郎	新潟東 自宅
		佐藤 重勝	新潟秋葉 自宅
		安達 徹	新潟西蒲 新潟市立総合教育センター
		白杵 勇人	新潟東 東区教育支援センター
		里村 俊夫	新潟西蒲 自宅
新 潟 大 学 全 学 同 窓 会	理 事	加藤 文子	新潟江南 自宅
		畠山 典子	新潟中央 新潟市立児童センター
		岡村 浩	大 学 新潟大学教育学部
		駒澤 一彦	新潟西 自宅
		カード事業	

平成30年度 同窓会学科代表

	学科名	学科代表	校名など
1	国 語	三村 孝志	川東中学校
2	地 理	羽田 雄偉	亀田小学校
3	歴 史 研 究 室	津野 治彦	亀田小学校
4	経 済	古井丸裕三	巻北小学校
5	哲 倫	清野 真輝	新潟小学校
6	社 会	土田 宏美	内郷小学校
7	算数（親話会）	岡村 秀一	小千谷小学校
8	数 学	橋谷田 登	亀田西中学校
9	物 理	茂呂 良彦	紫雲寺小学校
10	化 学	栗林 操	三川小学校
11	生 物	緒方 猛	新潟市教育委員会地域教育推進課
12	地 学	佐久間州彦	安野小学校
13	英 語	山賀 俣雄	県立直江津中等教育学校
14	音 楽	斎藤 隆	両川中学校
15	美 術	永井 高志	越前小学校
16	保 健 体 育	須田 哲明	沼垂小学校
17	家庭（萌木会）	渡辺 祐子	自宅
18	職 業 指 導	松村 明彦	自宅
19	教 育	山岸 真夫	自宅
20	教 育 心 理	岡田 義則	新潟市教育委員会
21	技 術	渡邊 勝	石山中学校
22	特別支援教育	鈴木 貴仁	附属特別支援学校
23	養教特別科	熊木 紋子	高田特別支援学校白嶺分校
24	幼 児 教 育	近藤 和徳	新津第一小学校
25	学社ネットワーク	小柳加奈子	田上町役場
26	生 活 科 学	遠山麻依子	白根第一中学校
27	生活システム	大森 山	糸魚川東中学校
28	健康スポーツ	大口 良平	大町小学校
29	書 道	岡村 浩	新潟大学教育学部

平成30年度 同窓会支部長

地域	番号	支 部	支部長	校名など
上 越	1	上 越	関 拓也	糸魚川東中学校
	2	長 岡 東	山本 俊介	中越教育事務所
	3	長 岡 西	高桑 康博	大島小学校
	4	三 条	五十嵐 晃	嵐南小学校
	5	柏崎・刈羽	寺井 昌人	鯨波小学校
	6	小 千 谷	西山 正樹	総合支援学校
	7	加 茂	国本 力	須田小学校
	8	十日町・津南	庭野 紀元	川治小学校
	9	見 附	吉田 孝則	見附小学校
	10	燕	洪木 保之	粟生津小学校
	11	魚 沼	高橋 栄子	小出小学校
	12	南 魚 沼	大原 有喜	五十沢小学校
	13	弥 彦	津端 則夫	弥彦中学校
	14	田 上	浅野 哲司	田上小学校
	15	湯 沢	野村 宏毅	湯沢中学校
	16	出 雲 崎	吉田 順一	出雲崎小学校
中 越	17	新 潟 北	小林 久哉	葛塚東小学校
	18	新 潟 東	伊藤 紀幸	下山小学校
	19	新 潟 中 央	渡邊 辰弘	万代長嶺小学校
	20	新 潟 江 南	齋藤 裕子	早通小学校
	21	新 潟 秋 葉	滝澤 訓	荻川小学校
	22	新 潟 南	椿坂 恭永	根岸小学校
	23	新 潟 西	野瀬 浩司	黒崎南小学校
	24	新 潟 西 蒲	永井 高志	越前小学校
	25	新 発 田	亀倉 隆嘉	いじみの分校
	26	村 上	鈴木 正美	村上小学校
	27	五 泉	石田 雄介	巢本小学校
	28	阿 賀 野	磯部 裕之	神山小学校
	29	胎 内	天井 弘	胎内小学校
	30	聖 籠	佐藤 紹夫	蓮野小学校
	31	阿 賀	栗林 操	三川小学校
	32	関 川	今井 学	関川中学校
	33	粟 島	田巻 元子	粟島浦小学校
	34	佐 渡	坂井 一美	真野小学校

平成29年度 一般会計決算報告

1. 収入の部 (▲は、予算に対して減)

項 目	29年度決算額	29年度予算額	増 減	摘 要
1 繰 入 金	8,180,000	8,180,000	0	総合会計から繰入れ
2 雑 収 入	12	100	▲88	銀行利息
合 計	8,180,012	8,180,100	▲88	

2. 支出の部 (▲は、予算に対して減)

項 目	29年度決算額	29年度予算額	増 減	摘 要
1 会 議 費	139,982	120,000	19,982	本部会、会計監査、評議会、役員会等（会場費、お茶代等）
2 旅 費	242,100	250,000	▲7,900	役員旅費、会員旅費
3 助 成 費	462,400	500,000	▲37,600	学科助成、支部助成、同期の会助成
4 事 務 局 費	566,760	500,000	66,760	消耗費、電話代、光熱費、封筒印刷代、印刷紙代、送料等
5 研 修 費	266,732	400,000	▲133,268	同窓生の集い企画運営費（会場費、講師謝礼、参加助成等）
6 広 報 費	1,430,481	1,400,000	30,481	機関紙発行代、発送代、HP更新手当、パンフNo.8作成代
7 組 織 費	124,080	370,000	▲245,920	名簿メンテナンス代、住所変更はがき印刷代
8 交 流 費	84,552	230,000	▲145,448	学部との交流会企画運営費（会場費、参加助成等）
9 大学・学生支援費	1,694,332	1,450,000	244,332	研修会参加助成、卒業制作展助成、卒業祝賀会助成等、カレンダー作成
10 全学同窓会費	609,200	1,000,000	▲390,800	負担金、全学交流会助成、運営委員旅費等
11 渉外・厚生費	131,600	100,000	31,600	附属校研究発表会等祝儀、新潟教育会館寄付等
12 人 件 費	1,742,000	1,740,000	2,000	事務局報酬2名
13 その他予備費	60,576	120,100	▲59,524	同窓会写真パネル代、ブラインド修理、タップコード等
合 計	7,554,795	8,180,100	▲625,305	

3. 残高の部 8,180,012円－7,554,795円＝625,217円 *残金は平成29年度総合会計へ繰り出します。

平成29年度 総合会計決算報告

1. 収入の部 (▲は、予算に対して減)

項 目	29年度決算額	29年度予算額	増 減	摘 要
1 繰 越 金	50,609,115	50,609,115	0	前年度繰越金
2 学校会員会費	3,095,752	3,200,000	▲104,248	会費一振込手数料 486校・3150名
3 個人会員会費	276,890	220,000	56,890	会費一振込手数料 309名
4 永年会員会費	6,034,074	6,000,000	34,074	会費一振込手数料 202名
5 繰 入 金	625,217	0	625,217	*一般会計への繰出金に残金が出た場合、年度末に繰入
6 雑 収 入	3,780	4,000	▲220	銀行利息など
合 計	60,644,828	60,033,115	611,713	

2. 支出の部 (▲は、予算に対して減)

項 目	29年度決算額	29年度予算額	増 減	摘 要
1 一般会計繰出金	8,180,000	8,180,000	0	

3. 残高の部 60,644,828円－8,180,000円＝52,464,828円 *残金は平成30年度総合会計に繰り越します。



* 2匹の猫ウェルダンとうさぎ
*教育学部の近くで、新潟カレッジキャットサークルの学生さんから可愛がられています。

◎新しくおいでになった先生

特任教授 川端 弘実
(教職大学院実務家教員)
平成三十年四月一日

准教授 Carmen Hannah
(カルメン・ハンナ) (英語科)
平成三十年六月一日

◎学部を去られた先生

教授 篠田 邦彦
(健康・スポーツ科)
平成三十年三月末日 定年退職

講師 佐藤 友哉(教育心理学)
平成三十年三月末日任期満了

特任教授 高橋 雄一
(教職大学院実務家教員)
平成三十年三月末日任期満了

大学教官の異動

(昨年の七月以降)

平成30年度 一般会計予算

1. 収入の部

(▲は前年度比較減)

項 目	30年度予算額	29年度予算額	増 減	摘 要
1 繰 入 金	8,630,000	8,180,000	450,000	総合会計から繰入れ
2 雑 収 入	0	100	▲ 100	
合 計	8,630,000	8,180,100	449,900	

2. 支出の部

(▲は前年度比較減)

項 目	30年度予算額	29年度予算額	増 減	摘 要
1 会 議 費	140,000	120,000	20,000	本部会、会計監査、評議会、役員会等
2 旅 費	250,000	250,000	0	役員旅費、会員旅費
3 助 成 費	500,000	500,000	0	学科助成、支部助成、同期の会助成
4 事 務 局 費	600,000	500,000	100,000	消耗費、電話代、光熱費、封筒印刷代、印刷紙代、送料等
5 研 修 費	350,000	400,000	▲ 50,000	同窓生の集い企画運営費等
6 広 報 費	1,500,000	1,400,000	100,000	機関紙発行・封入代、送料、パンフNo.7作成
7 組 織 費	200,000	370,000	▲ 170,000	名簿メンテナンス代、クリアファイルホルダー作製
8 交 流 費	150,000	230,000	▲ 80,000	交流会企画運営費、カミングホームディの参加助成
9 大学・学生支援費	1,450,000	1,450,000	0	研究会バス助成、卒業制作展助成、卒業祝賀会助成等、カレンダー作成
10 全学同窓会費	700,000	1,000,000	▲ 300,000	負担金、全学交流会助成、運営委員旅費等
11 渉外・厚生費	150,000	100,000	50,000	附属校研究発表会等祝儀、香典、会場借用費等
12 人 件 費	1,740,000	1,740,000	0	事務局報酬2名
13 教育学研究科助成	800,000	0	800,000	金額年度ごとに金額等の見直しをする。
14 その他予備費	100,000	120,100	▲ 20,100	
合 計	8,630,000	8,180,100	449,900	

平成30年度 総合会計予算

1. 収入の部

(▲は前年度比較減)

項 目	30年度予算額	29年度予算額	増 減	摘 要
1 繰 越 金	52,464,828	50,609,115	1,855,713	前年度繰越金
2 学校会員会費	3,000,000	3,200,000	▲ 200,000	会費 - 振込手数料
3 個人会員会費	220,000	220,000	0	会費 - 振込手数料
4 永年会員会費	6,000,000	6,000,000	0	会費 - 振込手数料
5 繰 入 金	0	0	0	*一般会計への繰出金に残金が出た場合、年度末に繰入
6 雑 収 入	4,000	4,000	0	銀行利息など
合 計	61,688,828	60,033,115	1,655,713	

2. 支出の部

(▲は前年度比較減)

項 目	30年度予算額	29年度予算額	増 減	摘 要
1 一般会計繰出金	8,630,000	8,180,000	450,000	
合 計	8,630,000	8,180,000	450,000	

事務局だより

◎会費納入のお願い

三十年度会費の納入をお願いします。
県内教職員の皆様は、学校・機関単位での入金となりますので、代表者にお届けください。

代表者の方には大変お手数をお掛けしますがよろしく願います。
個人会員の方には、個別に振込用紙をお送りします。

◎学科代表者・支部長の皆様へ

ご都合がつかず、評議会に出席できなかった皆様に助成金を送りましたのでご確認ください。また、当日の資料も送りましたのでご覧ください。

◎学校幹事の皆様へ

今年度、実践研究等の発表会開催を予定しておりましたら、お知らせください。同窓会ホームページ上でもご紹介いたします。

◎全学同窓会交流会のご案内

今年も講演会と懇親会を計画しています。

期日は十月二十日(土)、会場はANAクラウンプラザホテルです。懇親会参加者には会費の半額を補助いたします。是非ご参加ください。

「学び続ける教師」を支える

新潟大学大学院

教育学研究科長 宮 園 衛

同窓会員の皆様には、日頃より、学部・大学院の教育・研究活動に多くの御支援・御協力を賜り、篤く御礼を申し上げます。

平成二十九年度末をもって教育学研究科では修士課程を廃止し、今年度から教育実践開発専攻単独の研究科（教職大学院）として再出発しました。このため今年度四月から、教育学研究科長を務めさせていただいております。よろしくお願い申し上げます。

共に「学び続ける教師」

この三月末に第一期生十七名が、本教職大学院を修了しました。十三名の現職教員院生はそれぞれの学校・教育委員会等において新たな役割を担い、スクール・リーダー、ミドル・リーダーとしての役割を果たすことが期待されます。また四名の学部卒院生は新潟県内外の小中学校に採用されました。修了生ひとりひとりが、教職大学院での学びの経験を踏まえ、学校現場の教育課題に向き合い、共に学び続ける強い意志とチャレンジ精神を持ち続けることが求められているのです。

去る三月三日に開催した「にいがた教育フォーラム 2018 in March」の講

演の中で、講師の加治佐哲也氏は、高度専門職としての教員には学び続けて自己成長をはかることが求められること、そのために大学・教育委員会・学校が一体となり、それを支えることの必要性を説かれました。

本教職大学院の特徴の一つとして、理論と実践を往還する学びを保障するために、研究者教員と実務家教員が共同で授業や研究課題の指導に当たっていることが挙げられます。授業科目担当教員同士で授業前に、アクティブ・ラーニングを視野に収めた授業内容や授業方法について協議を重ね、「計画カリキュラム」を作成します。授業実施後には、実際の「実施カリキュラム」を振り返り、次回の授業改善を図るというPDCAサイクルに則った授業改善システムの場で授業を展開しています。また、課題研究でも、教員が共同で、院生の研究指導に向き合い、対話を通して共に学び高め合う営みを続けています。豊かな時間が流れるひとときであることを実感しています。

教職大学院の教員自身も、院生と共に学び、支え続ける教師の一人であることを自覚して、日々臨む所存です

教職大学院二年間の学びを終えて

新潟市立江南小学校

藤 塚 静 治

私は新潟大学教職大学院（学校経営コース）において多くを学んだ。高度な内容と対話的な方法の当院授業から得られた知見を現場にて実践し、省察を行う。その繰り返しによって成長した二年間であった。その学びの中軸が課題研究である。振り返ると、現場での二つの実習は、実践と省察の繰り返しにより学びが充実する大切な機会であった。

一 学校経営シャドウイング実習

本実習は、学校経営を推進する管理職が目指している子ども・学校・地域の姿と実現のための方策の考案・選択、効果の検証・改善等を現場にて管理職の講義や院生によるインタビューという形態で直接的に学ぶものである。私は大学院での二年間を新潟市立浜浦小学校二年生担任として学びを進めた。学級にて指導していることが多く、校長の意図や動向の把握は容易ではなかった。しかし、可能な限り機会を見付け、質問等を実施した。回答から得られる全てが、校長は学校や地域全体を俯瞰して考えていることがよく理解できた。

二 学校経営課題達成実習

私は実習校の学校教育目標において徳育面に課題があると捉え、研究を進

めることとした。学校課題解決のために、実習では職員が互いに学び合い高め合う機会を設定した。徳育面の育成は小学校の場合、各学級での指導に任されることが多い。そこで、学級間・職員間の壁を乗り越え、学校づくりや子どもへの育成について、対話を通して検討していく会議を考えたのである。真摯に取り組む実習校職員が会議を通じて互いの考えに触れ、各自が新たな学びを獲得することができた。そして、全職員で取り組む効果と職員の資質・能力の向上とが期待できる機会となった。本実習から、学校の子どもを育てることと全職員の力を高めることは一体であることを改めて学ぶことができた。

紹介した実習の他にも、現場を離れ当院で学ぶことによって、学校の存在意義や私自身が考える教育観を改めて捉え直すことができた。そして、社会・地域の変化を読み、対応する教育を構想する大切さを理解した。さらに、「常に学び続ける教師であれ」と教えていただいた二年間でもあった。二年間の学びは、私の教職人生において大事な転機であり、新潟の教育の一助になりたいと再自覚する契機となった。

大学のコーナー

教職大学院立ち上げの経緯と今後の展望

新潟大学副学長（ダイバーシティ担当）
教育学研究科副研究科長 小久保 美 子

「『教師』という職業は、最先端の仕事である。」——これは、学部授業の初回ガイダンスに私が学生に伝え続けてきた言葉です。教師は、目の前の子供たち一人一人に、未来の社会をしっかりと生きていける力を育成しなくてはなりません。その意味で、教職は未来に先んじた仕事であり、「最先端の仕事」といえます。

教職大学院は、鳥取（鳥根大学で養成）を例外とし、今年度を以て全ての都道府県に設置され、これから質的充実期を迎えます。新潟大学教職大学院は、平成二十八年度に開設し、今年三月に、初めての修了生を出しました。感無量の思いで、十七名、一人一人に修了証書を手渡しました。

以下、本稿では、教職大学院立ち上げの経緯と今後の展望について述べることにいたします。

一 修士課程の歴史と伝統の上に

新潟大学教育学研究科（修士課程）は、昭和五十九年に設置され、現職教員の履修体制として大学院設置基準第十四条の特例の活用を図り、一年目は

フルタイムで通学し、二年目は勤務しながら修士論文を執筆する方式を採用し、教員の資質向上に努めてきました。平成二十年には、現職教員対象の「一年制履修コース」（教育実践開発コース）を新設し、入学定員十五名の増加を図りました。このような時代の要請に合わせて改革を推進してきた教育学研究科の歴史と伝統があつてこそ、本学教職大学院の設計を短期間に進めることができ、設置に至った経緯を忘れてはならないと肝に銘じています。

二 教員養成への期待と夢をのせて

「教育は国家百年の大計なり」と申しますが、教職大学院設置の全国的展開は、来るべき人口減少社会の現実に鑑みた時、必然であったと私は考えています。生産年齢人口が激減していく中で、一人一人に社会の担い手としての資質・能力を培うことは、日本社会の維持発展のために必要不可欠であり、子どもたちに、そのような資質能力を付けることのできる力のある教師の育成が重要なことは論を待ちません。教職大学院設置後、専任の先生方と、「優

秀な教員とはどのような資質能力を備えた教員のことか」「有能な管理職はどのようにして育成可能か」について、よく話し合いました。そう簡単に結論づけることは出来ませんが、確実に言えることは、「いろいろな人と関わることのできる人間力」を有しているということとです。そのような人間力の根底には、「今現に生きてある存在として、一人一人を心から尊重する態度」がありましよう。そのような態度は、学校内外の教育関係者、現職教員学生と学部新卒学生、実務家教員と研究者教員、年齢も立場も役割も異なる者同士が目の前の教育の現実について語り合うことを通して育成されるものであると、教職大学院のカリキュラムにその期待と夢を載せました。その期待と夢があつたからこそ、設置を進める過程で味

わつた様々な葛藤も乗り越えることができた、今となつては懐かしうこの四年間を振り返っています。

三 「多様性」を教員養成の文化に

私は、現在「ダイバーシティ担当」の副学長を拝命しています。ダイバーシティとは、「多様性」の意ですが、本学のダイバーシティの理念として「性別、年齢、国籍、障がいの有無など属性の異なる多様な個人を差別せず協働する組織を目指すこと。」を掲げています。この理念は、まさに、学校教育の場で実現されなくてはならないものです。教員養成を預かる私達教員

集団においては何をか況やです。自分と異なる考えをもつ者を受け容れることはたやすいことではありません。「自分こそが正しい」という思いを払拭し、他者の意見に謙虚に耳を傾ける姿勢がなくては、考えの異なる他者と協働することは難しいでしょう。

新学習指導要領では、「コンテツベース」から「コンピテンシーベース」へとパラダイム転換がなされ、全ての教科で「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性」の枠組みで内容が構成し直されました。予測困難な未来社会を生き抜くには、課題解決のために、「どのような知識や技能が必要とされるのか、それらはどのようにすれば得られるのか」を自らに問い、「思考し、判断し」「行動に移す（表現する）」ことのできる資質・能力が求められます。自ずと、求める過程においては、いろいろな他者との関わりが必要になります。

次年度から教職大学院は拡充を予定しており、ダイバーシティはますます進みます。教職大学院の設置計画から運営に至るこれまでの数々の経験は、「連綿と続く日々の営みの中で関わり合う全ての人に感謝をもって教師人生を全うしたい」と、そんな思いを抱かせてくれました。「改革」という貴重な経験をさせていただけたことへの感謝を込め、今後の教職大学院の発展を祈念しつつ本稿を閉じたいと思います。

講演会

.....というより「寄席」のような楽しいお話

ドラマをつくる

～教育実践, 特別活動の醍醐味～

期 日

平成30年

9月29日 (土)

13時30分受付開始

入場無料

どなたでも入場
できます

講 師



会 場

新潟薬科大学 非常勤講師 橋本 定男 氏

アートホテル新潟 越後 (東) の間

新潟市中央区笹口1-1 ☎025 (240) 2111

日 程

13:30 ▶	受 付
14:00 ▶	開 会
14:15 ▶	講演会
15:45 ▶	移 動
16:00 ▶	懇親会
18:00 ▶	

懇親会

～「第45回同窓生の集い」のお誘い～

新潟大学教育学部の卒業生の方は懇親会に参加してください。
参加希望の方は、会場準備の都合がありますので、9月20日
までにご連絡ください。懇親会費は3000円です。

新潟大学教育学部
同窓会事務局

tel&fax 025 (263) 6760

mail:
dousou@ed.niigata-u.ac.jp

※火曜から金曜までの13:00から17:00の間にお問い合わせいたします